

**製品名: ATPO ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab07351**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	23kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ATP5O ATPO
別名	
遺伝子 ID	539.0
SwissProt ID	P48047
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 1-80

**背景**

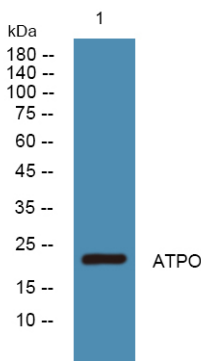
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ミトコンドリアマトリックス中に存在する F 型 ATPase の構成要素である。F 型 ATPase は、触媒コアと膜プロトンチャネルから構成される。コードされるタンパク質は、これら 2 つの構成要素を連結するコネクタ

の一部であると考えられ、構造変化やプロトン伝導の伝達に関与している可能性がある。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能:ミトコンドリア膜 ATP 合成酵素 (F(1)F(0) ATP 合成酵素または複合体 V) は、呼吸鎖の電子伝達複合体によって生成される膜を横切るプロトン勾配の存在下で、ADP から ATP を生成する。F 型 ATPase は、膜外触媒コアを含む F(1) と膜プロトンチャネルを含む F(0) の 2 つの構造ドメインから構成され、中心茎と周辺茎によって互いに連結されている。触媒反応中、F(1)の触媒ドメインにおける ATP 合成は、中心の茎状サブユニットの回転機構を介してプロトン輸送と結合している。複合体 F(0)ドメインと周縁の茎状構造の一部であり、触媒  $\alpha(3)\beta(3)$ サブ複合体とサブユニット  $a/ATP6$  を回転要素に対して静的に保つ固定子として機能する。類似性: ATPase デルタ鎖ファミリーに属する。サブユニット: F 型 ATPase は、触媒コアである CF(1)と膜プロトンチャネルである CF(0)の 2 つの構成要素から構成される。CF(1)には、 $\alpha(3)$ 、 $\beta(3)$ 、 $\gamma(1)$ 、 $\delta(1)$ 、 $\epsilon(1)$ の 5 つのサブユニットがある。CF(0)には、 $\alpha$ 、B、C の 3 つの主要サブユニットがある。

## 研究分野

酸化的リン酸化、アルツハイマー病、パーキンソン病、ハンチントン病、

## 画像データ



U2OS 細胞溶解液のウェスタンブロット分析、ATPO ウサギポリクローナル抗体を 1:1000 に希釈し、4°で一晩